



ホームページ

# 泰山木

<http://www.city-takaoka.jp/bakurou/index.html>

新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。  
2009年の年頭にあたり、子どもたちの健やかな成長と  
皆様のご多幸を心からお祈りいたします。  
本年も、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成21年 元旦

高岡市立博労小学校 校長 新井 郁夫  
教職員一同

## 本当の姿が見えるところ

— 今年はどうし年 あなたは、ぶちの黒を見ますか？白を見ますか？

篠井 田 鶴子

ここにありますが、墨でまるをひとつかいた「圓相」。

「どこをご覧になりますか。」

「もちろん、墨でかかれたマルを見ますよ。黒い<sup>まる</sup>円。」

「そうですね。真ん丸で、書いた人の筆の勢も残る墨の濃淡。  
なかなかの作ですね。」



ちょっと、見るところを変えてみましょうか。この<sup>まる</sup>円がかかれた白い紙を見てみましょう。  
墨の黒で囲まれた真ん中の<sup>まる</sup>は、雪の玉にも花びらにも見える「白い円」です。それと、も  
うひとつ。その<sup>まる</sup>円の周りの余白。こちらは、黒い輪が浮かぶ広い空間に、さらに宇宙にも見えて  
きませんか。

目の前の出来事や物事を理解しようとするとき、自分が感じた第一印象や目で見えることを頼りにします。これは至極当然のことです。しかし、このようにして「わかった」と思っていたことを後から「勘違い」「思い違い」だったと訂正することも、またしばしば経験します。

先日、年末のこと。例のごとく、かけっぱなしのラジオから聞こえてきた対談に、思わずボリュームを上げました。

「いつもむっつりとしているAさんがいます。周りの人からは、取っつきにくい人とがいつも機嫌が悪い人と思われています。笑うことはほとんどありませんが、何かのきっかけで笑ったところを見たのです。そのときにAさんって本当に取っつきにくい人なのかなあ、実は違うんじゃないかと気づいたんです。」

その人の本当の姿は、いつも見せない姿の中にこそあるんじゃないでしょうか。

「ああ、心当たりがあるなあ。そういうことなんだ。わかるなあ。」と家事の手を止めました。

年の始め、書初大会では、子どもたちは真っ白の紙に真っ黒のパステルで、たっぷりの墨液を含んだだるま筆で、力を込めて黒々とそれぞれの課題を書いたことでしょう。書き上げた作品から何が見えるでしょう。左義長の前に持ち帰りますが、ぜひ一緒にじいっと鑑賞してください。